

# 令和元年度学校自己評価（アンケートの集計と考察）

長野県稲荷山養護学校

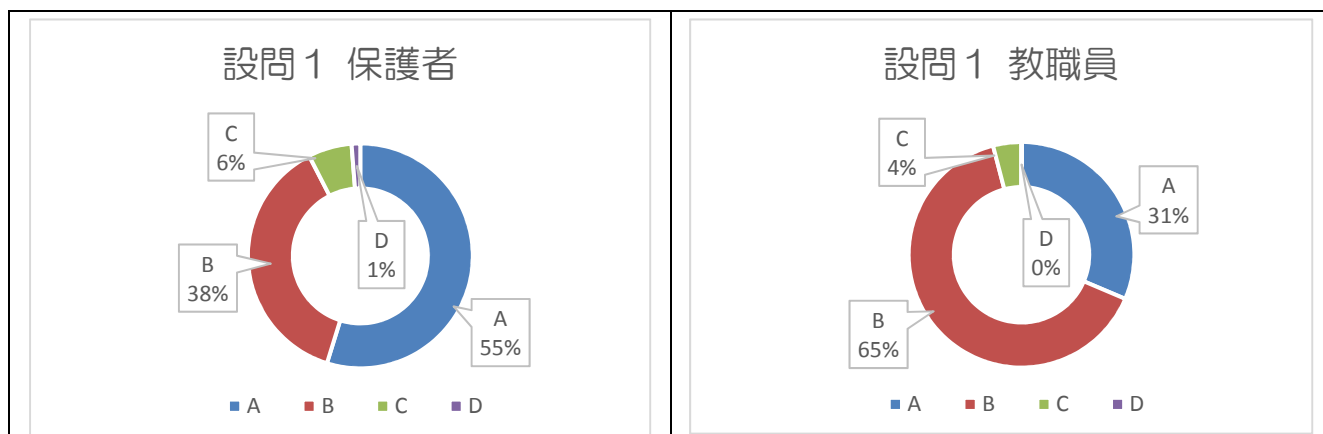
## 1 回収率（※ 人数は児童生徒数）

	小学部			中学部			高等部			分教室			合計		
	人数	提出	%	人数	提出	%	人数	提出	%	人数	提出	%	人数	提出	%
保護者	113	96	85	70	60	86	85	71	84	22	12	55	290	239	82
教職員													164	161	98

評価基準 A：そう思う B：だいたいそう思う C：あまりそう思わない D：そう思わない

## 2 項目ごとの保護者・教職員間比較（※ 設問は保護者アンケートの内容）

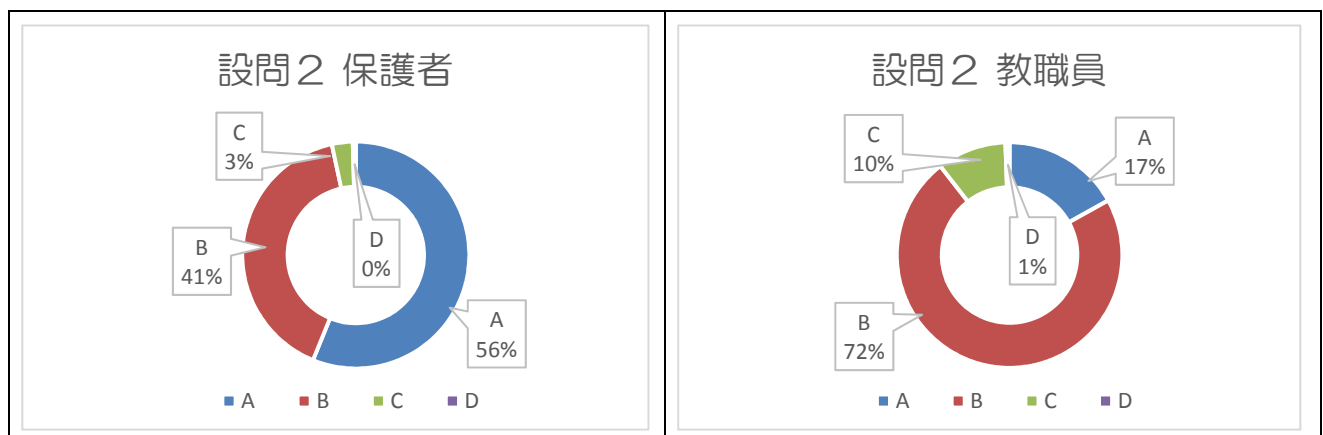
設問1 職員は、生活年齢や障がい特性に配慮し、特別支援教育の専門性を活かした教育を行おうと努力していると思いますか。



教職員、保護者共にAとBを合わせた評価が90%を超えました。特別支援教育に係る各種の研修会（全校研修、ブロックやコースの研究・研修、事例検討、自主的な研修など）への積極的な参加を通して、特別支援教育についての専門性が保たれている結果であると思われます。

一方で、保護者の回答を見るとCとDを合わせて7%となることについても真摯に受け止めたいと思います。児童一人一人の障がい特性に応じた適切な指導、支援のあり方、子どもの人権を大切にされた教育者としてのあり方など、教職員一人一人が改めて問われていることを自覚し、今後の指導、支援に生かしてまいります。

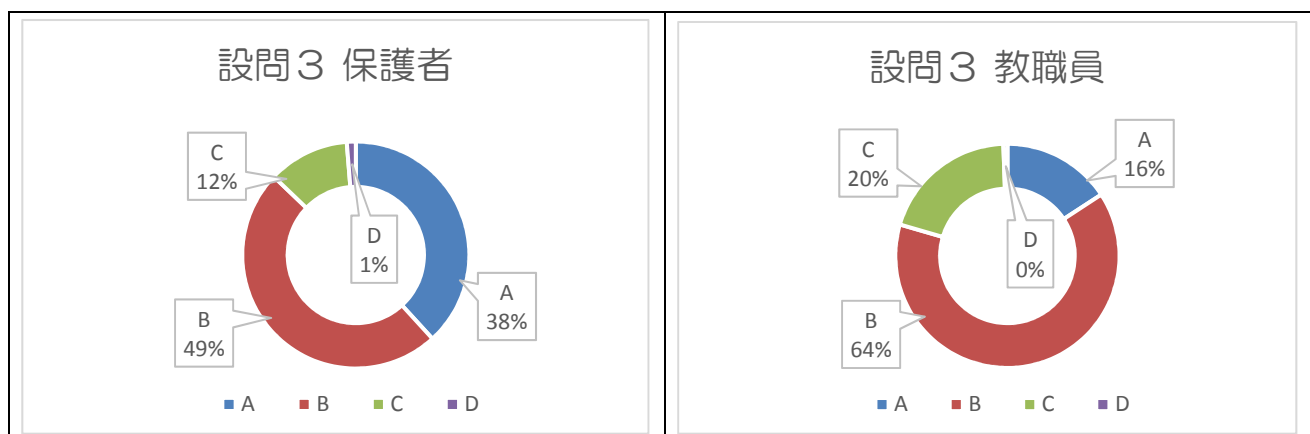
設問2 学校は、個別の指導計画を作成し、それに基づいて適切な指導、支援をしていると思いますか。



保護者の回答を見るとAとBを合わせた評価が90%を超えました。個別の指導計画に基づいた児童生徒理解や支援が保護者の理解につながっている（保護者への説明責任を果たしている）と思われます。

一方で、教職員のCの評価が10%と昨年度よりも7%高くなっています。個別の指導計画の形骸化（前年度の踏襲であったり、大切な内容を収集するためのカルテ化だったり）や作成の負担、指導、支援への具体的な生かし方の難しさなど、教職員の感じている課題を洗い出し、改善に取り組んでまいります。

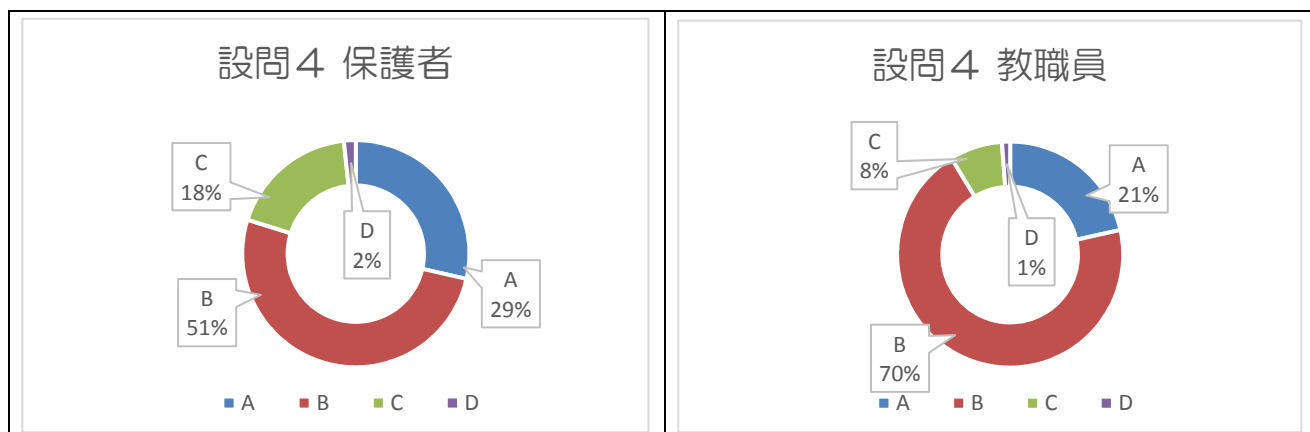
設問3 学校は、前年度の学級や学部からの引き継ぎが適切になされ、連携した指導、支援を行っていると思いますか。



保護者の回答を見るとAとBを合わせた評価が87%と、昨年度と比較して改善傾向にあります。児童生徒の育ちや有効な支援、学習環境の整え方、障がい特性への配慮など、ていねいな連携に努めてきたことが評価されたと思われます。一方で、自由記述の中には、支援の連続性や継続性の観点から、「担任が代わるたびに同じ説明をする」「相談をしたいと思っているが時間がない」「情報のやりとりをしたい」などの意見が上がっています。

教職員の評価を見ると、AとBを合わせた評価が、昨年度と比較して5%低くなっています。学級、学部からの引き継ぎや情報交換の仕方の難しさに課題があると思われます。課題（引き継ぎ方、回数、時間、内容など）を明確にするとともに、システム自体の見直しや整備も必要になると思われます。

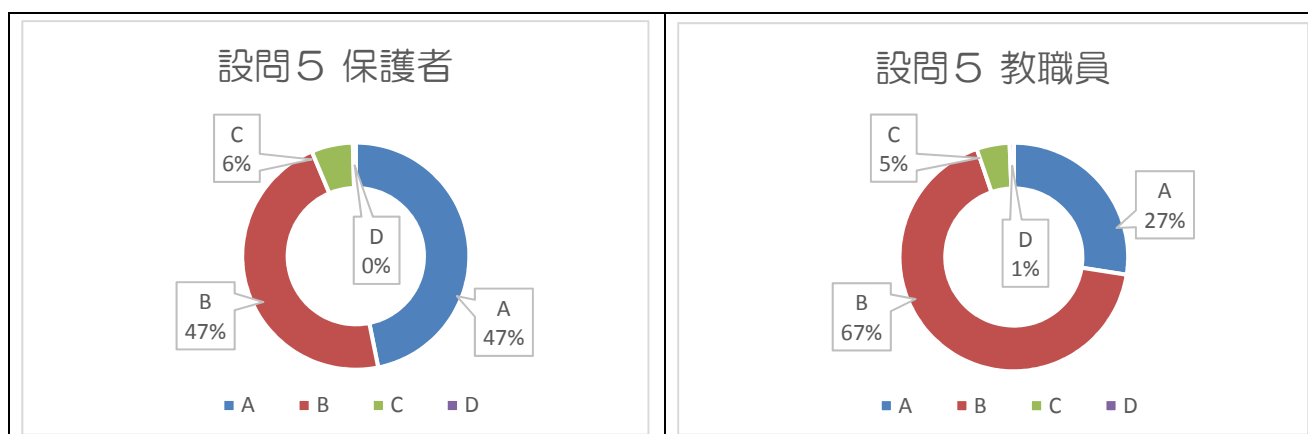
設問4 学校は、家庭・地域・関係機関（市町村の福祉関係機関、支援センター、ハローワーク、医療機関、児童相談所等）と有意義な連携を行っていると思いますか。



教職員、保護者の評価ともに昨年度と大きな変化はありませんでした。諸機関との連携については、保護者の期待やニーズの高さがうかがえます。保護者の中には、稲荷山医療福祉センターとの連携の強みは感じているものの、他の機関との連携についても要望したり、一般就労に向けてハローワークとの連携の強化を希望したり、家庭によってニーズも様々です。また、台風19号による被災の経験をもとに、学校に求めていくだけでなく、保護者同士でも連携し、情報交換を積み重ねるの必要性を感じているといった意見もありました。

教職員については大きな変化ではありませんが、「あまりそう思わない」→「だいたいそう思う」と有意義な連携に向けて改善傾向にあります。連携によって見えてきた課題に対しての取組の成果の表れと思われます。今後も何かしらの成果につながることにこだわりながら連携を行ってまいります。

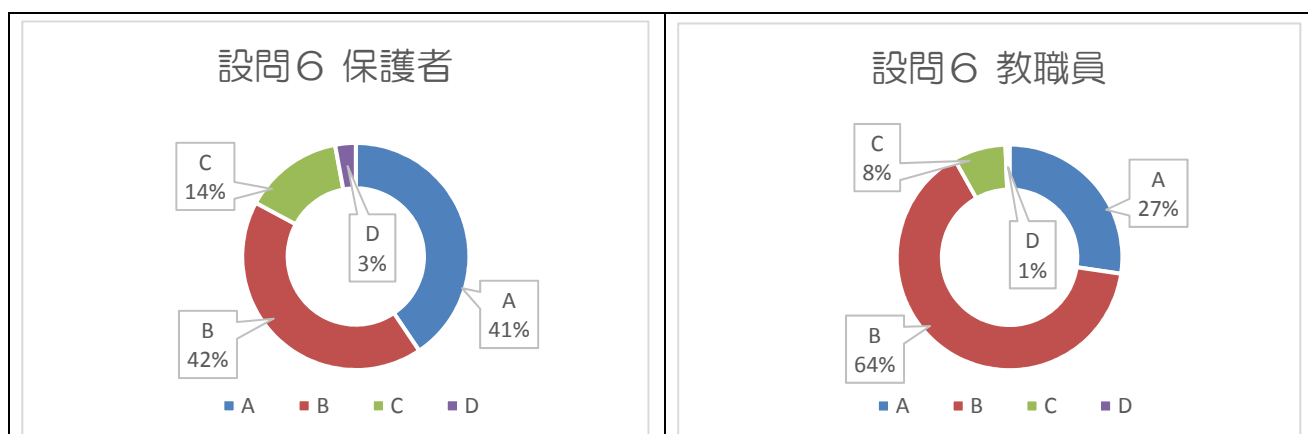
設問5 児童生徒は、学校生活を通してその子なりに基本的な生活習慣（あいさつ、身辺自立、性に関すること等）が育っていると思いますか。



教職員、保護者の回答を見ると A と B を合わせた評価が 90% を超えました。特に保護者の A 評価が 50% 近くあり、日頃の教職員の丁寧な指導、支援の成果であると思われます。「少しずつではあるが成長を感じる」「こと細かくていいいにやっていただいている」などの高評価も自由記述に見られました。

一方で、教職員の A 評価が 30% 未満であり、成果が「だいたい」という表現の中に吸収されてしまっています。成果があったことについては、具体的に「どの場面で」「どのような力がついたのか」「そのために有効な支援は何か」を明確にして、保護者にも説明をしていく必要があります。また、一くくりにされている「基本的な生活習慣」のどこに課題があるのか、具体的な中身（例えば、性教育に課題がありそうなのかなど）を明らかにし、教職員一人一人の今後の取組に活かしてまいります。

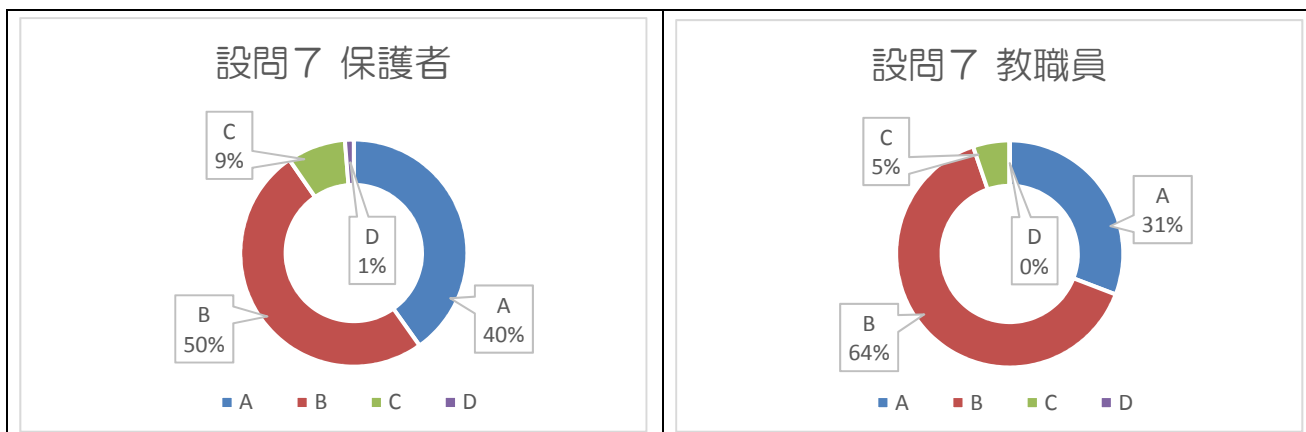
設問6 学校や家庭における悩みなどを気軽に相談できる体制が整っていると思いますか。



保護者の回答を見ると A と B を合わせた評価が 83% と、昨年度と比較して改善傾向にあり、概ね良好な評価です。直接、連絡帳、電話など、家庭とのやりとりの方法は様々ですが、日常的に相談できる関係づくりを意識して取り組んできた成果であると思われます。

一方、教職員については、C 評価が増え、思うように家庭と相談できる場や時間、関係がとれていないと感じている教職員が増えているといった結果となりました。保護者の自由記述の中にも、「先生が多忙過ぎて相談するのに気がひける」といった意見もありました。「児童生徒にとって大切なこと」に時間をかけることができるよう、業務の精選を図りながら、保護者との良好な関係づくりをさらに進めていきたいと思ひます。

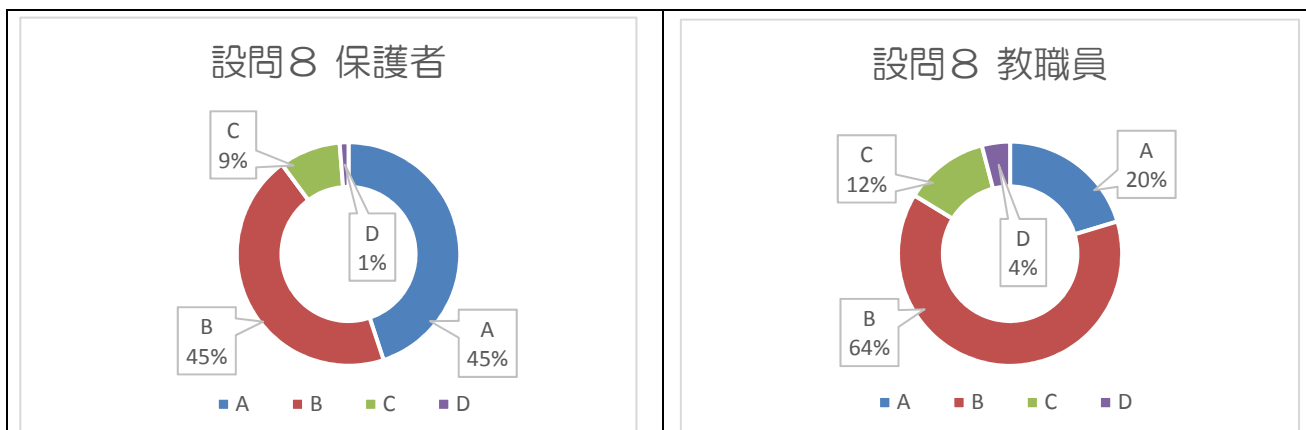
設問7 交流や宿泊行事、校外学習は、児童生徒の実態にあったものになっていると思いますか。



教職員、保護者の回答を見ると A と B を合わせた評価が 90% を超え、児童生徒にとって概ね良好な行事となっていることがうかがえます。児童生徒の実態や行動様式の多様化に応じて、できる限りすべての児童生徒のニーズに応じた計画を立案、実施しようと試みた成果だと思われます。来年度、高等部では教育課程に対応して 4 回（そよかぜ、分教室を含む）の修学旅行を実施する計画です。今後も、児童生徒の実態と保護者のニーズとの関連を図りながら、どの児童生徒にとっても意味のある行事にしていきたいと思います。

一方、自由記述の中には、学部や学年が上がったにもかかわらず、行き先が近場になったり、活動が単調になったりと学習の連続性について疑問を感じるといった意見がありました。「児童生徒に多様な経験を期待する」校外学習に対する保護者の思いを受け止めて、計画立案に生かしてまいります。

設問8 学習環境（学校の施設・設備、教室環境など）は、児童生徒にとって生活しやすいものになっていると思いますか。

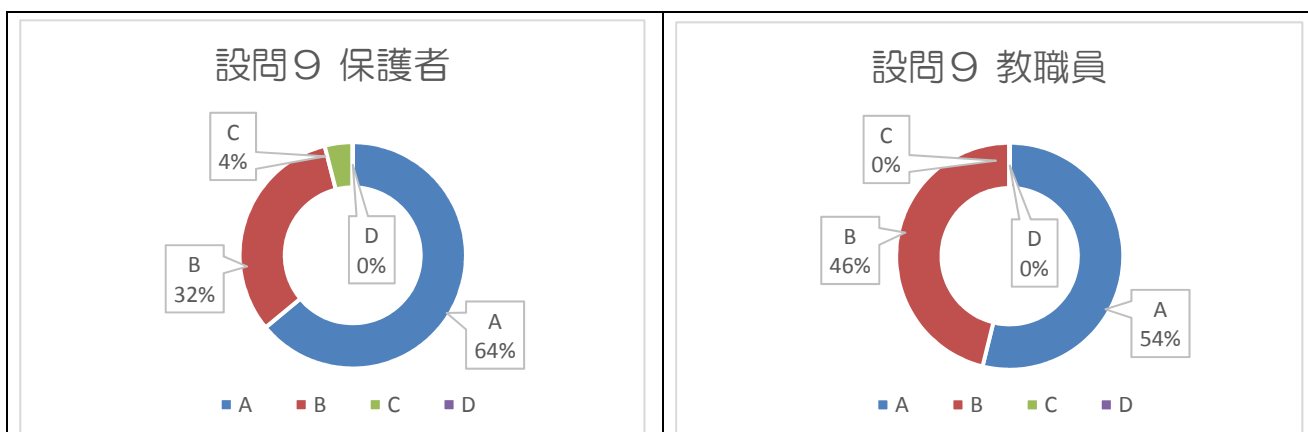


普通教室にはエアコンが整備済み（平成 28 年度）です。分教室についても昨年度末に設置が済みました。また、作業室などの特別教室にもエアコンの設置が決定し、3 月末までに整備される予定です。その他、学習時間の長いホールやプレイルームなどの室温管理については対策が必要であり、今後の課題となっています。

保護者の 10% を超える C と D を合わせた評価には、夏冬ともに教室と廊下の寒暖差の大きさ、児童生徒の増加やニーズに合わせての教室数の不足、中庭で存分に体を動かすことのできる遊具の不足、スクールバスを利用したの通学保証など、学習環境について整備を求める意見が上がっています。

今後も校舎の修繕をはじめ、施設設備の整備を計画的に進めていきたいと思っています。

設問9 寄宿舎では、舎生にとって安心安全な環境を整えたり、温かい支援が行われたりしていると思いますか（現舎生保護者）。

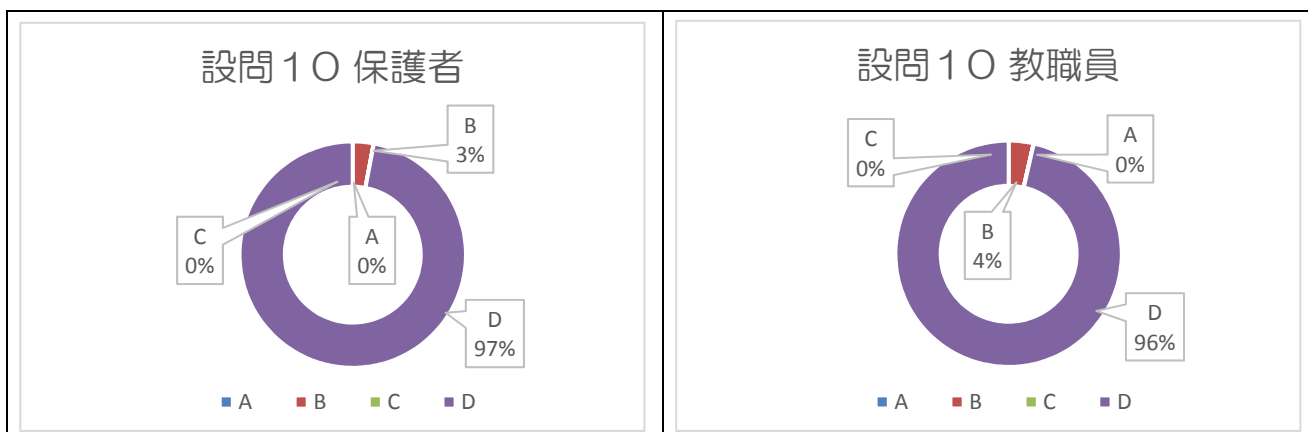


教職員、保護者共にAとBを合わせた評価が90%を超え、児童生徒にとっての安心安全な環境づくりや、児童生徒への温かな支援に努めてきたことが評価されたと思われます。3年間のグラフの推移を見ても、保護者のA評価が年々高くなっています。

また、教職員の結果を見ても、CとDを合わせた評価が0%であり、寄宿舎と教室が連携して支援してきた成果が出てきていると思われます。

引き続き、振り返りや見直しを行い、寄宿舎生にとって快適であり、保護者には安心して託すことのできる寄宿舎運営を図っていきたいと考えます。

設問10 今年度、あなたのお子さんが体罰をされたということを見たり聞いたりしたことはありますか。



保護者、教職員ともに、B「ある」が1～2%高くなり、3年間の推移を見ても上昇傾向です。

保護者からは、「行き過ぎた指導」「強い指導」という言葉を用いての回答が複数ありました。体罰とは言えないが、見方によってはそのように感じる、体罰につながる可能性があるということを重ねて受け止めて、経過や内容について全校で改めて確認をしました。

教職員からも「大きな声による指導があった」「子どもを強制的に動かしている」との指摘がありました。教職員の指導、支援について自ら戒める、指摘し合う、話し合う職員集団でありたいと思います。そのために学校長からの指導、自己の振り返り、グループ討議研修などを今後も継続し、人権意識の高い職員集団づくりを行ってまいります。

また、児童生徒を「放っておかれる」という指摘も保護者からいただきました。学習環境や学習内容、支援の仕方など、互いに授業を見合いながら研鑽し、改善を図ってまいります。

# 3年間の比較

